

【暗証聖句】「しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです。」ヘブライ人への手紙 8:6

【今週のポイント】今週は新しい契約とは何か、その本質について学びます。

【日・新しい契約の必要】

旧約時代の祭司制度では、祭司はレビ族から任命されることになっていました。この流れからいけば、本当の大祭司であるイエス様はレビ族の出である必要がありますが、イエス様はレビ族ではなく王を輩出するユダ族の出身でした。このことに関して、詩編 110:4 に、「わたしの言葉に従って、あなたはとこしえの祭司メルキゼデク（わたしの正しい王）」と預言されており、やがて来られるキリストはレビ族出身ではなく、メルキゼデクに等しい祭司として描かれています。この預言をヘブライ人への手紙では繰り返し強調されており、またなゼイエス様はメルキゼデクに等しい祭司として預言されているのかについて、ヘブライ 7:11 に次のように説明しています。

「ところで、もし、レビの系統の祭司制度によって、人が完全な状態に達することができたとすれば…いったいどうして、アロンと同じような祭司ではなく、メルキゼデクと同じような別の祭司が立てられる必要があるでしょう。」つまり、レビの系統の祭司は罪びとであり不完全であるがために、人々を完全に清めることはできない。だから、レビ族ではない祭司が必要であったということです。メルキゼデクはまだレビ族が生まれる前に創世記に登場し、アブラハムを祝福した王であり祭司でもありましたが、詳しいことはわかっていないのですが、ここで重要なのは祭司制度が変更されたのだということです。そして、ヘブライ人 7 章 12 節にあるように、「祭司制度に変更があれば、律法にも必ず変更があるはず」だということです。つまり、罪から真の完全な清めをもたらすことも、神様に近づくこともできない動物を犠牲にするのではなく、大祭司であるイエス様ご自身の命がささげられたということです。このことについて、7 章 18, 19 節に次のように書かれています。

「その結果、一方では、以前の掟が、その弱く無益なために廃止されました。優れた希望がもたらされました。わたしたちは、この希望によって神に近づくのです。」

【月・新しい契約と更新された契約】

ヘブライ人への手紙 8 章 10 節で、『それらの日の後、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである』と、主は言われる。『すなわち、わたしの律法を彼らの思いに置き、彼らの心にそれを書きつけよう。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる』と書かれています。これはエレミヤ 31 章 31 節～34 節に書かれてある主の預言の引用ですが、エレミヤ書 31 章 31 節では、「見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる」と、主は「新しい契約」を結ぶと言われています。この「新しい」と訳されたヘブライ語の「ハダシャー」は、「更新した」という意味があります。それは民たちが契約を破ったからです。しかし、更新とはいっても、その内容は全く新しいものと言っても過言ではありませんでした。これまでは契約の中身である律法が文字で書かれていました。しかし、新しい契約では律法を心に書きつけるというのです。このことが意味しているのは、神様の思いが私たちの思いとなるということ。それにより私たちは主と一つとなれるということです。この状態は、父なる神様と御子なるイエス様との状態と同じです。つまり、新しい契約によって、私たちが同じような関係を主と結ぶことができるようにしてくださったということです。

【火・更にまさった仲介者を持つ新しい契約】

ヘブライ人への手紙 8 章 6 節に、「しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです」と書かれています。イエス様は旧約時代の祭司の務めに比べて、さらに優れた働きをしておられ、さらにまさった契約の仲介者となられたと書かれています。この仲介者という言葉は、調停者・仲介人・証人・連帯保証人などの意味がある言葉です。ヘブライ人への手紙では、特に「連帯保証人」としての意味を強調しています。イエス様は、私たちと父なる神様との仲介者あるのと同時に、私たちの身を保証してくれる方でもあるということです。私たちは他人の保証人となることを躊躇することでしょう。それは万が一のときに保証しきれないからです。しかし、愛している人のためなら保証人になっても良いと考えるかもしれません。イエス様は私たちを愛してくださっているがゆえに、自ら保証人となってくださり、また保証金として自らの命を支払ってくださったのです。

【水・更にまさった約束に基づく契約】

更にまさった約束とは何のことを指しているのでしょうか。出エジプト 24：7、8 において、モーセが「契約の書を取り、民に読んで聞かせ」と、民たちは、「わたしたちは主が語られたことをすべて行い、守ります」と誓います。そして、モーセは血を取り、民に振りかけて、「見よ、これは主がこれらの言葉に基づいてあなたたちと結ばれた契約の血である」と宣言し、契約が結ばれる様子が描かれています。つまり、神様の教えを完全に守るということ、民たちが神様と交わした約束でした。神様の教えに完全に服従しなければならないというのは、新しい契約になっても変わることはありません。天国に罪を持ち込むことは許されないからです。しかし、私たちは神様の教えに完全に服従することのできない弱さを抱えています。そこで、私たちの代わりにイエス様が神様に完全に服従してくださり、さらに罪のない状態でご自分の体をささげてくださいることになったのです。これが更にまさった約束に基づく契約の意味です。

ヘブライ 10：9、10「次いで、「御覧ください。わたしは来ました。御心を行うために」と言われています。第二のものを立てるために、最初のを廃止されるのです。この御心に基づいて、ただ一度イエス・キリストの体が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです」

わたしたちに求められていることは、これを信じることです。これにより新しい契約が結ばれます。

【木・心の問題を解決した新しい契約】

エレミヤ書 31 章 33 節で約束された新しい契約である、「主の律法を私たちの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す」とは、神様の思いと私たちの思いが一つとなり、心から、主がわたしたちの神となり、私たちは主の民となることのできるの驚くべき約束です。これはクリスチャンにとって大いなる喜びであり、幸せとなることでしょう。また、このことはかたくなな心を変えられていくことを意味しています。なぜなら、問題は民の心にあったからです。神様は少しずつ私たち心と主の心を一致させてくださいます。これは聖霊の不思議な働きです。ただ、聖霊は無理やり私たちの心をこじ開けて入ってくることはありません。わたしたちが主の思いを喜んで受け入れることが鍵です。主の心を日々求め、主の思いを喜び、主と一つとなることをいつも祈り求めていきましょう。